

「ふれあいの里山」復活大作戦



日時	2016年2月6日(土) 10時00分～14時30分(昼休み:30分)		
場所	金ヶ崎公園		
参加者	エコウイング会員／3名(午後2名)	事務局／1名	計 4名

● 午前

今日は、先月までの活動より1時間遅く、10時に集合して市民自然図鑑の昆虫観察を始めました。冬季は、朝早くは気温が低く、昆虫が活動しないため開始時間を繰り下げました。今月も都合で参加できないメンバーが多く、4名だけの活動になりました。

いつものように公園内の観察コースを巡って昆虫を探しましたが、ほとんど見つけることはできませんでした。観察できたのは、樹木の名札をめくった下に隠れていたミヤマオビオオキノコや集団で越冬中のヨコヅナサシガメだけで、あとは少数のクモのなかまが見つかっただけでした。

● 午後

午後は、ひとり少なくなった3名で公園西側斜面の雑木林に入り、少し背丈が伸びてきたヤブニッケイやカナメモチ、ヒサカキなどの常緑樹の除伐作業をしました。

今日も先月と同様に、昼休みを30分に短縮して午後の作業を早く開始し、代わりに予定より早く午後2時30分ごろに作業を終了しました。

昆虫観察の様子(その1)



昆虫観察の様子(その2)



常緑樹の除伐作業(その1)



常緑樹の除伐作業(その2)



- 次回の活動は、3月5日(土)の予定です。来月もまだ早朝は気温が低く、昆虫が姿を見せないと思われるため、朝10時から市民自然図鑑の昆虫観察を始め、午後は里山整備活動を予定しています。たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

MORIさんとHIROYA君の自然観察日記(その1)

今日の観察会で撮影した昆虫などを紹介します。暦の上では春になったとはいえ、まだまだ気温も低く、観察できた昆虫は樹木の名札の下にいた2種類だけでした。そのほかに、公園奥の水源池付近で、アベマキの幹に昨年の夏のニイニゼミの抜け殻がまだたくさん残っていました。

また、ウバメガシの幹に昆虫の卵胞の殻が残っていました。殻に小さな穴が開いていて、中は空洞でした。公園の管理をしている人が、近所の苦情で大きなスズメバチの巣を撤去していました。

越冬中のミヤマオビオオキノコ



大きな集団で越冬中のヨコツナサシガメの幼虫



寄生蜂に寄生されていたヒロヘリアオイラガの繭の殻



明石では激減したニイニゼミの抜け殻



撤去されたコガタスズメバチの巣

野鳥では、冬鳥のジョウビタキやアオジ、ツグミ、シロハラなどが姿を見せました。そのほかに、キジバトなどを観察しました。ふもとの北浦池では、アオサギやバン、マガモを確認しました。

ジョウビタキ(オス)



ジョウビタキ(メス)



アオジ



MORIさんとHIROYA君の自然観察日記(その2)

ツグミ



シロハラ



キジバト



アオサギ



バン



マガモ(メス)



植物では、公園入口の紅梅が満開になっていました。そのほかに、ヤマツツジとモチツツジが季節外れの花を咲かせていました。やはりこの冬は、暖冬なのでしょうか。

満開の紅梅



ヤマツツジの花



モチツツジの花

